

まごころこめて磨き合う なまづっこ

「なかまと まごころこめて すすんで やりぬく子」
 ～学び磨き・こころ磨き・健康磨き～

2023.6.30 発行

生津小学校の図書館には“14,018冊”の本があります。毎年、子どもたちの興味や関心がありそうな本や学習に使える本を購入したり、PTAや地域の方から寄贈いただいたりして、約600冊の新刊が入ります。そうした学校の本は、内容やテーマごとに分類されています。日本十進分類法を使い、0から9までの10個の数字にあてはめて本を分類し、整頓されています。

6月7日から21日の11日間、図書委員会が企画した「あじさい図書館まつり」が行われました。全校のみなさんに、いろいろな分類の本を読んでもらおう、本に親しんでもらおうと、ビンゴカードを利用しながら進めました。この取組の期間中、全校で『3,158冊』図書館の本を読むことができました。子どもたちから、

「4分類は自然のことだよ。理科は好きだからよく借りているよ。」

「私は昨年度、学校の本を100冊以上読みました。今年になって、50冊は読んでいます。」

「本を読むと知らないことが学べるから楽しいです。」

など、いろいろな声を聞きました。

図書整理員の先生が『読書は心の栄養』とよく言われます。これは読書には感情や感性を豊かにする効果があるからです。これからも、本に親しんでいきましょう。



読書による効果

瑞穂市では、子どもたちが読書を通じて人生をより深く生きることを願い、子どもの読書活動を推進しています。読書には、様々な効果があることが分かっています。

◇新しい知識が増える

読書は、これまで知らなかったことを知るきっかけとなるため、新しい知識や教養が身に付きます。そうすると、視野が広がり物事をいろいろな側面からみられるようになると考えられています。

◇語彙力が育ち、文章力が養われる

本を読むとたくさんの言葉が出てきます。知っている言葉もありますが、知らない言葉も出てくるため、今までの自分にはなかった言葉を身に付けることができます。また、同時に良い文章に触れることで文章力も磨かれると考えられています。

◇想像力が豊かになる

参考書や学習ドリルも活字で書かれていますが、本は文章から情報を読み取ることになります。物語文なら登場人物はどのような気持ちだったか五感をフル活用して楽しめます。このように、読書は子どもの想像力を養ってくれます。

その他にも、コミュニケーション能力を高めたり、リラックスしやすい状態をつくることで前向きな気持ちになったりする人もいます。学校では、読書を習慣化するために、学級で図書館に行き本を借りたり、読書の時間を設けたりして、本をいつも手元に置いて読めるような環境作りに努めています。

あと、3週間ほどで夏休みになります。子どもたちにとって普段より時間が豊富にある夏休みに、毎日10分でも読書の時間をつくるのもよいですね。また、お子様と一緒に読書をしたり、同じ本を読み、どんな本であったか感想を共有したりする楽しみ方もよいのではないのでしょうか。